

シリーズ講座 月を知る・深める

◆10/22 (木) 1回 15:30~17:00

講師：『柳田國男全集』編集委員 小田 富英

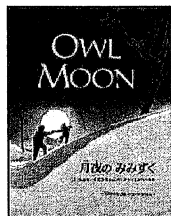
『遠野物語』と月 三題 ※教室&オンライン



◆10/30・11/27 (金) 2回 10:30~12:00

講師：元フェリス女学院大学教授 藤本 朝巳

絵本に描かれた光と影 ※教室&オンライン



ジェイン ヨーレン (詩)
ジョン・ショーエンヘル (絵)
工藤 直子 (訳) 偕成社

◆10/30 (金) 1回 13:30~15:00

講師：なかのZERO プラネタリウム解説員 坪内 重樹

月のしくみと役割 ※教室&オンライン



月明かりで踊る妖猫たち

◆11/18 (水) 1回 13:00~14:30

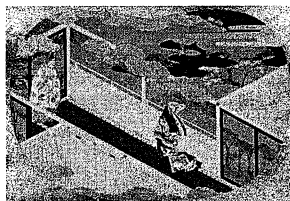
講師：女子美術大学名誉教授 原 聖

月とケルト文化 ※教室&オンライン

◆11/30 (月) 1回 10:30~12:00

講師：国学院大学教授 竹内 正彦

「源氏物語」の月 ※教室&オンライン



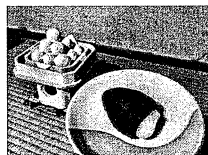
『源氏物語』扇画帖 (国文学研究資料館所蔵)

◆12/19 (土) 1回 10:30~12:00

講師：(株)らくたび代表取締役 若村 亮

【月】が照らした千年の都【京都】

※教室&オンライン



『遠野物語』と月 三題

シリーズ「月」

講師 『柳田國男全集』編集委員 小田 富英

さまざまな人に愛され、読み継がれてきた『遠野物語』の魅力は、柳田国男あるいは柳田国男が創った学問の枠内だけにとどまらず、それぞれの読み手によって増殖していく「無限の可能性」にあると言えます。今回は、秋の夜長に『遠野物語』を片手に月見だんごを食しながら、その増殖のゆくえを追ってみたいと考えてみました。

『遠野物語』には、場面設定のイメージとしての「月」が登場する話が二つあります。ひとつは、99 話の三陸大海嘯で妻を亡くした福二の話。もうひとつが、103 話の小正月の夜に出る雪女の話です。どちらも、「月」は、異界からの訪問者の登場の雰囲気づくりに一役かっています。

三題のうちの三つ目は、直接、『遠野物語』には登場しない「月」の話です。36 話からの狼の話に出てきそうなのですが、ここには出てきません。別のイメージに使われています。当日のお楽しみに。

最後に、柳田国男が月見の習俗をどのように見ていたのかにも触れてみます。いつもと違う月見ができることを、ささやかに願っています。ぜひいらしてください。(講師・記)



<テキスト> 当日プリントを配布します。

日 時 2026 年 10/22 1 回 第 4 木曜日 15:30~17:00

受講料 会員 3,630 円(入会金は 5,500 円。70 歳以上は入会無料、証明書が必要です)

一般 4,730 円

設備費 220 円

※入会金・受講料・教材費等は消費税 10%を含む金額です。

場 所 ルミネ横浜8階(横浜駅東口)

<講師紹介> 小田 富英(おだ・とみひで) (裏面に続く)

東京学芸大学卒。36 年間東京都公立小学校教員を勤めた後、作新学院大学特任教授を経て、現在、『柳田國男全集』編集委員、日本地名研究所理事、『地名と風土』編集長、遠野文化研究センター研究員、常民大学運営委員、『遠野物語』で交流を楽しむ会(『遠野物語』交流楽会)代表など。

編著:『柳田國男全集』別巻 I 「年譜」(筑摩書房)、『柳田國男自筆 原本 遠野物語』(岩波書店)、共著:『柳田國男伝』

